

政界、芸能界、スポーツ

界などの有名人にも脳卒中

を起こした患者さんが少な

からずいますので、この病

気自体を知らないことはな

いと思います。しかし脳卒

中は脳神経外科だけが診療

する病気と思われている方

が意外と多くいらっしゃる

ます。今回は脳卒中と脳神

経内科の関係についてお話

します。

実は、脳卒中は私たち脳

神経内科が関わる病気の中

でも最も多い疾患の一つ

です。後遺症が残る病気で

もあることから介護が必要

になる原因疾患の筆頭にあ

げられています。脳神経内

科では脳卒中の診断から治

療、後遺症に対するケアや

リハビリテーション、社会

福祉資源の活用の手配な

ど、全経過を通じて関わっ

ています。

そんな脳卒中ですが、3

つの病型があることを意外

います。

① 血管が詰まるのが脳梗塞。

② 血管が破れて脳内に出

血するのが脳

出血。

③ 血管(特に

脳動脈瘤)が

破れて脳の

外側に出血

するくも膜

下出血。

以上の3つに

なります。患

者数は約150万

人、毎年25万

人が新たに脳

卒中を発症し

ていると推測

されており、

寝たきりにな

る原因の約3

割とされてい

ます。

従来、脳神

経内科は主に

脳梗塞と脳出血を担当し、

術の進歩により、脳梗塞の

た。脳梗塞でも動脈硬化を

背景とする頸動脈閉塞症

(頸動脈の血管にコレステ

ロールなどが

たまり、動脈

硬化も加わっ

て血管が詰

まった状態)

が原因の場合

には狭窄及び

詰まった原因

である動脈硬

化病変を外科

的に切除する

血栓内膜剥離

術が必要とな

ります。また

脳出血でも大

きな脳出血の

ために血腫除

去術が必要な

場合などには

脳神経外科が

治療を担当し

ます。医療技

術の進歩により、脳梗塞の

一病型である脳塞栓症では

栓回収術が広く行われるよ

うにもなりました。近年は、

診断はもとより治療も含め

て、脳神経内科と脳神経外

科が協同して当たることが

望ましい診療体制と考えま

す。岩手医科大学ではまさ

にこうした体制下で脳卒中

診療を実践しています。

脳卒中死亡率全国最下位

になったことがある岩手県。

そのため岩手県脳卒中予防

県民会議は「脳卒中死亡率

全国ワースト1からの脱却

をスローガンに毎月28日を

「いわて減塩適塩の日」と定

めています。そして日本脳

卒中協会は毎年10月を脳卒

中月間と定めています。皆

さんも脳卒中の発症防止の

ため、特に生活習慣病の予防

には、ご注意ください。

内丸メディカルセンター

は、紹介状の有無に関わら

ず受診が可能です。

岩手医科大学

脳神経内科・老年科



いわて医療通信【超高齢化社会を支えるお仕事】

4. 岩手県民に多い脳卒中

た。脳梗塞でも動脈硬化を背景とする頸動脈閉塞症(頸動脈の血管にコレステロールなどがたまり、動脈硬化も加わって血管が詰まった状態)が原因の場合には狭窄及び詰まった原因である動脈硬化病変を外科的に切除する血栓内膜剥離術が必要となります。また脳出血でも大きな脳出血のために血腫除去術が必要な場合などには脳神経外科が治療を担当します。医療技術の進歩により、脳梗塞の一病型である脳塞栓症では栓回収術が広く行われるようにもなりました。近年は、診断はもとより治療も含めて、脳神経内科と脳神経外科が協同して当たることが望ましい診療体制と考えます。岩手医科大学ではまさにこうした体制下で脳卒中診療を実践しています。脳卒中死亡率全国最下位になったことがある岩手県。そのため岩手県脳卒中予防県民会議は「脳卒中死亡率全国ワースト1からの脱却をスローガンに毎月28日を「いわて減塩適塩の日」と定めています。そして日本脳卒中協会は毎年10月を脳卒中月間と定めています。皆さんも脳卒中の発症防止のため、特に生活習慣病の予防には、ご注意ください。内丸メディカルセンターは、紹介状の有無に関わらず受診が可能です。岩手医科大学 脳神経内科・老年科 前田哲也